# 文学部主催　社会におけるメディア・表象文化

## プログラム概要

本プログラムは、芸術・表象文化やメディア文化の優れた価値を社会に生かしていく知識と実践力を養うための副専攻プログラムです。

現代のメディアにおける表現は極めて多様化・複雑化・多層化しており、これらに関わる課題に対しては、学問分野を越えた、複合的・学際的なアプローチが求められています。

本プログラムを通じ、自学部での専攻分野に関する知識を越えて、多様な視点に基づく専門知識と実践力を備えた人材の養成を目指します。

本プログラムは、多分野にまたがる芸術・表象文化やメディア文化に関する科目群により構成されており、各科目の履修を通じて、メディア・表象文化に関する理論と実践を融合させた学びを提供します。

## 到達目標・学修成果

プログラムの履修を通じ、履修者が以下の学修成果を身につけることを到達目標とします。

これらの能力を身につけたプログラム修了者には、文化の創造・発信・交流を担う機関・企業や、文化創造を守り、育成する行政職等での活躍が期待されます。

・芸術・文芸作品およびメディア・表象文化の総合的理解：文化・歴史的背景への理解を基礎として多様な作品の表現を鑑賞し、かつ表象文化のメディア表現の特質や社会的価値などを、学際的な視点で理解し分析できる力

・データ分析・評価能力：分析や評価の方法を多様に学び、それらを複合的に使いながら、合理的な根拠と推論に基づいて、価値評価ができる力、ないし価値を生み出す力

・実践的な表現力：多岐にわたるケーススタディを通じて理論と実践とを融合的に理解し、みずからの表現においてもその知を実践に生かす力。

・領域横断的な視野と先端技術の進展によって、いっそう複雑化し多重化した表象文化を掘り下げて考察し、よりクリエイティヴな視聴を実践していく力

## プログラム修了要件

### 修了要件

副専攻科目のうち、16 単位以上を修得すること。

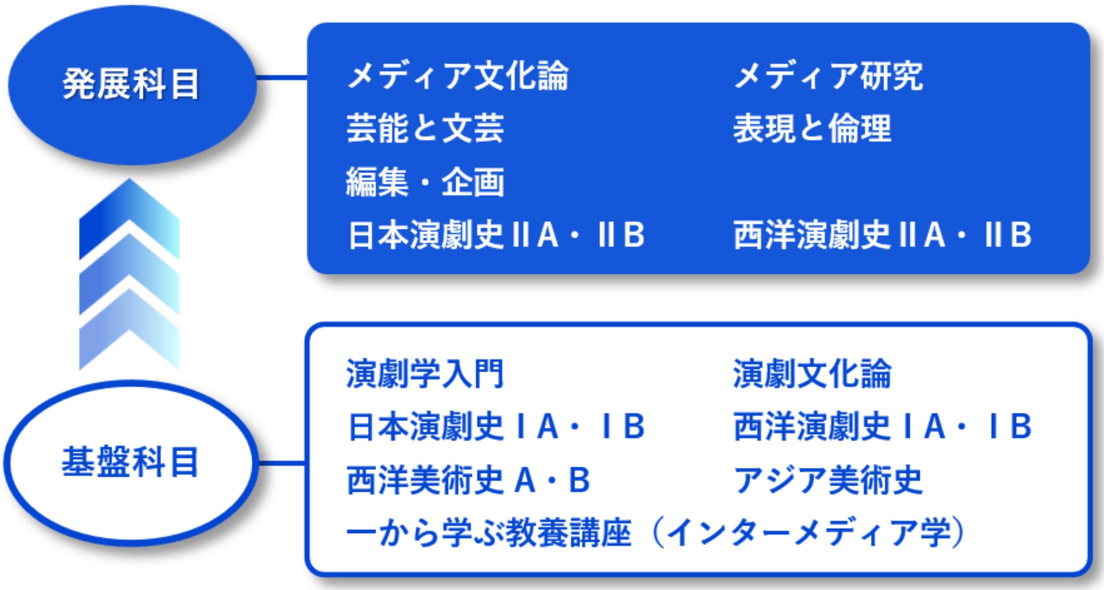
### 副専攻プログラムを主催する学部に所属する学生の取扱い

文学部の学生は、本副専攻プログラムを修了することはできません。

## 副専攻科目一覧　※講義内容は Oh-o! Meiji のシラバスでご確認ください。

| No. | 主催学部 | 科目名称<br>★:2024 年度以降入学者が履修する場合の名称<br>◇:2023 年度以前入学者が履修する場合の名称<br>注記なし：入学年度に関わらず共通の名称 | 単位数 | 配当年次 | 開講ｷｬﾝﾊﾟｽ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文 | ★メディア文化論／◇現代文化論 | 2 | 1～2 年 | 和泉 | 2024 年度以降に入学した法学部学生は履修不可。 |
| 2 | 文 | メディア研究 | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 3 | 文 | ★芸能と文芸／◇パフォーマンス研究 | 2 | 3～4 年 | 駿河台 | |
| 4 | 文 | 表現と倫理 | 2 | 3～4 年 | 駿河台 | |
| 5 | 文 | 編集・企画 | 2 | 3～4 年 | 駿河台 | |
| 6 | 文 | ★演劇学入門／◇演劇概論Ａ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 7 | 文 | ★演劇文化論／◇演劇概論Ｂ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 8 | 文 | 日本演劇史ⅠＡ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 9 | 文 | 日本演劇史ⅠＢ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 10 | 文 | 日本演劇史ⅡＡ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 11 | 文 | 日本演劇史ⅡＢ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 12 | 文 | 西洋演劇史ⅠＡ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 13 | 文 | 西洋演劇史ⅠＢ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 14 | 文 | 西洋演劇史ⅡＡ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 15 | 文 | 西洋演劇史ⅡＢ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |
| 16 | 文 | 一から学ぶ教養講座（インターメディア学） | 2 | 1～4 年 | 和泉 | 2024 年度以降入学者のみ履修可 |
| 17 | 文 | 西洋美術史Ａ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | 2019 年度以前に入学した理工学部学生は履修不可。 |
| 18 | 文 | 西洋美術史Ｂ | 2 | 1～2 年 | 和泉 | 2019 年度以前に入学した理工学部学生は履修不可。 |
| 19 | 文 | アジア美術史 | 2 | 1～2 年 | 和泉 | |

## カリキュラム体系図




※2024年度以降の入学者向けの科目名を記載しています。

## 履修者へのメッセージ

もしあなたが、人間の生きざまや奥深い感情の世界をもっと知りたい、と思うなら、私たちを呑み込もうとする情報の渦から抜けだすだけではなく、何かの「作品」に向き合うことが大切です。とはいえ「作品」もまた、特定の時代の人間の姿や感情を伝えるひとつのメディアです。さてここにある、人間、表象、作品、メディアの関係は今日ますます複雑化していますが、そこにあるプロセスとその内容を学ぶことは、私たちが人間をより深く探求するためには必要不可欠な知ではないでしょうか。このプログラムの多角的な学びによって、あなた自身の発見があることを願っています。